



FY21 2Q 決算説明資料

2021年10月29日 東京特殊電線株式会社

1. 決算概要	• • •	P.03
2. FY21配当金及び業績予想	• • •	P.09
3. Appendix	• • •	P.11

(百万円、%)	FY20 2Q	FY21 2Q	増 減	増減率	増減要因
売上高	7,805	10,518	+2,713	+34.8	<p>売上原価</p> <p>売上高の増収、また、主要原材料である銅地金価格の高騰等が影響し原価は増加となった。 一方で、高付加価値製品の伸長や原価低減の推進に伴い、原価率は大幅な改善となっている。</p> <p>法人税、住民税及び事業税</p> <p>▲149百万円 (▲211百万円→▲360百万円)</p> <p>法人税等調整額</p> <p>▲130百万円 (▲7百万円→▲137百万円)</p>
売上原価	5,752	7,402	+1,650	+28.7	
<u>(率)</u>	73.7	70.4	▲3.3pt	—	
売上総利益	2,052	3,115	+1,063	+51.8	
販売費及び一般管理費	1,109	1,230	+121	+10.9	
営業利益	943	1,885	+942	+99.8	
<u>(率)</u>	12.1	17.9	+5.8pt	—	
経常利益	1,008	1,911	+903	+89.6	
税金等調整前四半期純利益	1,013	1,889	+876	+86.5	
親会社株主に帰属する当期純利益	773	1,379	+606	+78.4	

- ・売上高は10,518百万円となり、前年同期比+2,713百万円（+34.8%）の増収となった。
- ・売上高増減に含まれる為替換算による影響額：+305百万円
（電線・ヒータ分野：+174百万円、デバイス分野：+131百万円）

構成比

電線・ヒータ分野



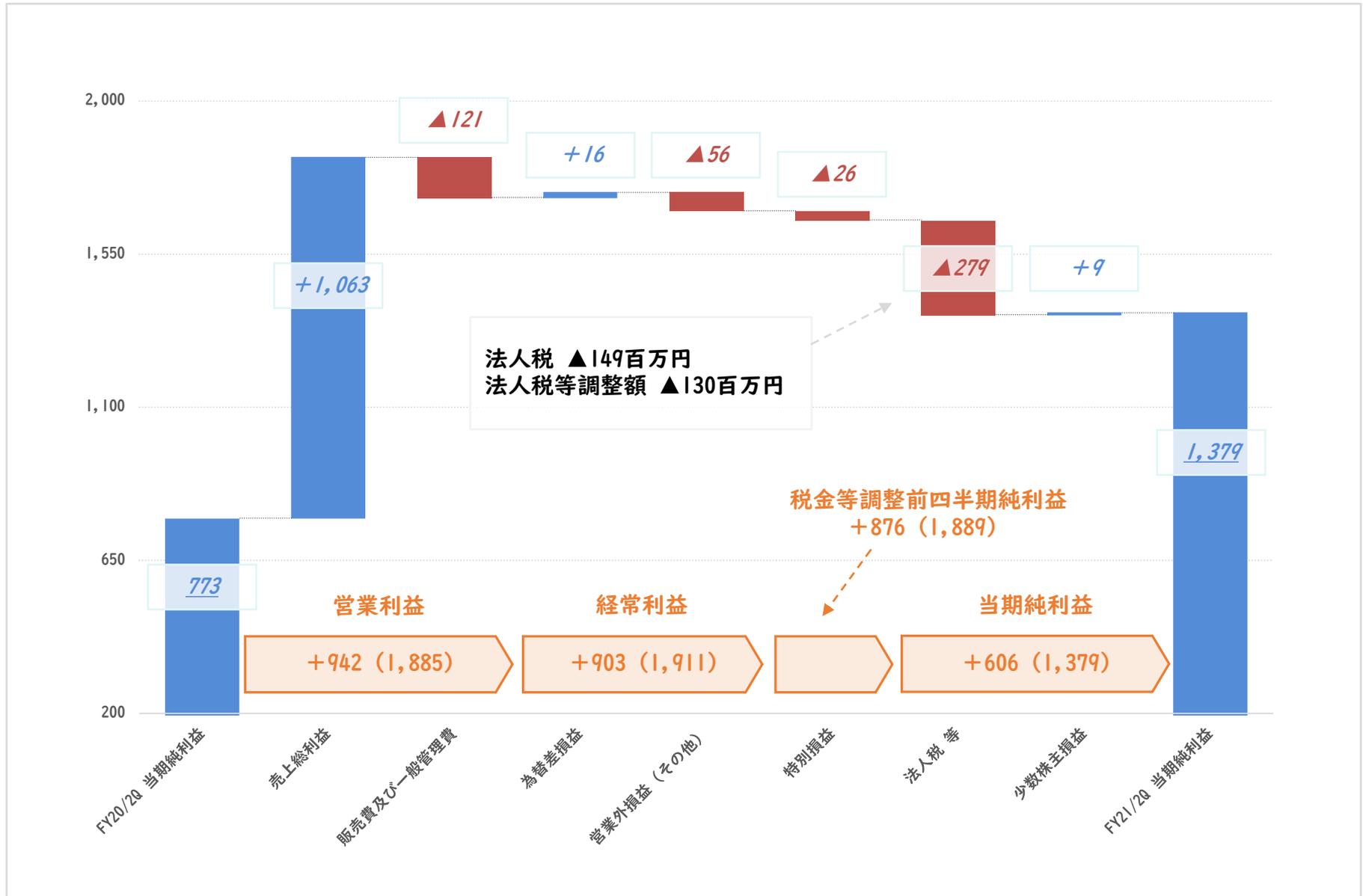
前年同期においてコロナ禍の影響により大幅に減収となっていた自動車向けシート用ヒータ線が今期は回復基調にあることから大幅な増収となり、また、パソコン等の小型トランスに使用される三層絶縁電線も堅調に推移したため、前年同期比+1,770百万円（+37.6%）と大きく上回っている。

デバイス分野



前年同期でのコロナ禍の影響から回復した中国子会社の焼付線の好調やプリンター等に使用されるフレキシブルフラットケーブルについても巣ごもり需要による増収が継続していること、また、半導体パッケージ基板導通検査治具に使用されるコンタクトプローブが5G市場向けで堅調となっていることから、前年同期比+962百万円（+31.6%）の増収となった。

(百万円、%)	FY20 2Q	FY21 2Q	増減	増減率
売上高（連結）	7,805	10,518	+2,713	+34.8
電線・ヒータ分野	4,708	6,478	+1,770	+37.6
デバイス分野	3,040	4,002	+962	+31.6
その他分野	55	36	▲19	▲34.8



- ・営業利益は1,885百万円となり、前年同期比+942百万円（+99.8%）の増益となった。
- ・営業利益増減に含まれる為替換算による影響額：+31百万円
（電線・ヒータ分野：+17百万円、デバイス分野：+14百万円）

構成比

電線・ヒータ分野



主要原材料である銅地金価格や樹脂、塗料価格の高騰等による影響を受けたものの、前年同期においてコロナ禍の影響で減収となっていた自動車向けシート用ヒータ線が好調に推移、また、半導体検査や半導体製造装置に使用されるケーブルや中国子会社のヒータ線が堅調に推移したことから売上高で大きく増収となった結果、前年同期比+687百万円（+147.7%）の増益となっている。

デバイス分野



中国子会社の焼付線、フレキシブルフラットケーブルおよびコンタクトプローブが好調に推移していることから売上高で大幅な増収となったことに加え、売上高を占める品種構成において高付加価値製品が伸長した結果、前年同期比+271百万円（+49.1%）の増益となった。

(百万円、%)	FY20 2Q	FY21 2Q	増減	増減率
営業利益（連結）	943	1,885	+942	+99.8
電線・ヒータ分野	464	1,151	+687	+147.7
デバイス分野	550	821	+271	+49.1
その他分野	▲72	▲87	▲15	—

(百万円、%)	FY20	FY21 2Q	増減	増減率
流動資産	15,991	16,918	+927	+5.8
現金及び預金	9,843	9,988	+145	+1.5
その他	6,148	6,930	+782	+12.7
固定資産	9,902	10,154	+252	+2.5
有形、無形固定資産	7,465	7,702	+237	+3.2
投資その他の資産	2,437	2,451	+14	+0.6
資産合計	25,894	27,073	+1,179	+4.6
流動負債	6,177	5,868	▲309	▲5.0
固定負債	3,618	3,554	▲64	▲1.8
負債合計	9,795	9,423	▲372	▲3.8
(うち、有利子負債)	2,359	2,357	▲2	▲0.1
株主資本	15,226	16,628	+1,402	+9.2
その他	872	1,021	+149	+17.1
純資産合計	16,098	17,650	+1,552	+9.6
負債純資産合計	25,894	27,073	+1,179	+4.6
自己資本比率	60.7	64.5	+3.8pt	—
Net Cash	7,483	7,631	+148	+2.0

増減要因

流動資産 (その他)

売掛債権 +546百万円
棚卸資産 +358百万円
未収入金 ▲162百万円 等

有形、無形固定資産

設備投資 +622百万円
減価償却費 ▲461百万円
固定資産除売却 ▲22百万円
その他 +98百万円

流動負債

新社屋建設に伴う設備支払手形の
支払い▲1,054百万円
仕入債務 +367百万円
未払金 +291百万円 等

株主資本

資本剰余金 +217百万円
利益剰余金 +1,178百万円
自己株式 +8百万円

1. 決算概要	• • •	P.03
2. FY21配当金及び業績予想	• • •	P.09
3. Appendix	• • •	P.11

- ・FY21の年間配当金は、60.0円／株と予想（中間配当 30.0円／株、期末配当 30.0円／株）
- ・FY21の業績予想は、最近の業績の動向等を踏まえ、2021年5月12日に公表しました業績予想を下表の通り修正しております。詳細につきましては、同日に公表しました「2022年3月期 第2四半期決算短信」をご参照ください。

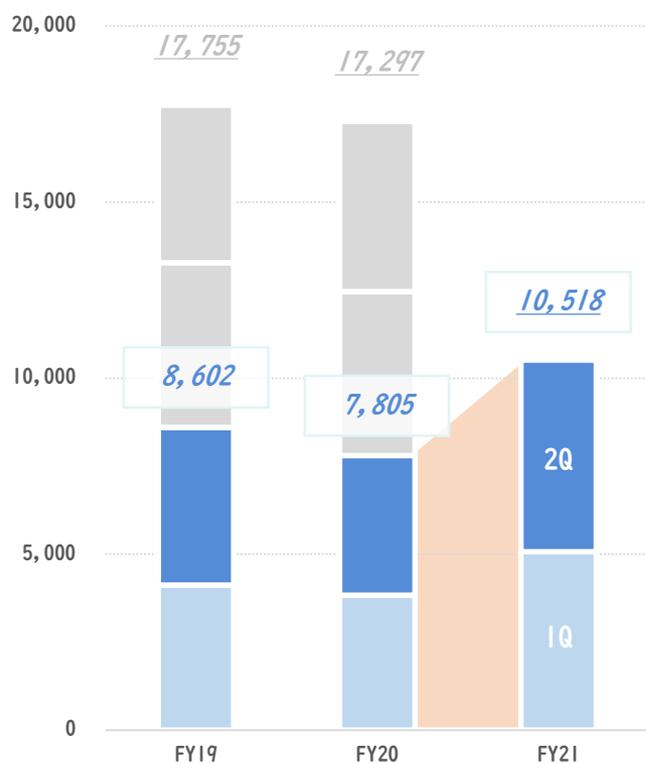
配当金（円. 銭）	中間配当	期末配当	合計	総額（百万円）	配当性向（％）
FY19	30.0	30.0	60.0	405	34.3
FY20	30.0	30.0	60.0	404	22.4
FY21（予想）	30.0	30.0	60.0	—	20.5

業績予想（百万円、％）	FY20 実績	前回予想（a）	今回予想（b）	増減（b - a）	増減率
売上高	17,297	18,500	19,700	+1,200	+6.5
営業利益	2,483	2,550	2,800	+250	+9.8
経常利益	2,538	2,520	2,810	+290	+11.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,801	1,810	1,970	+160	+8.8

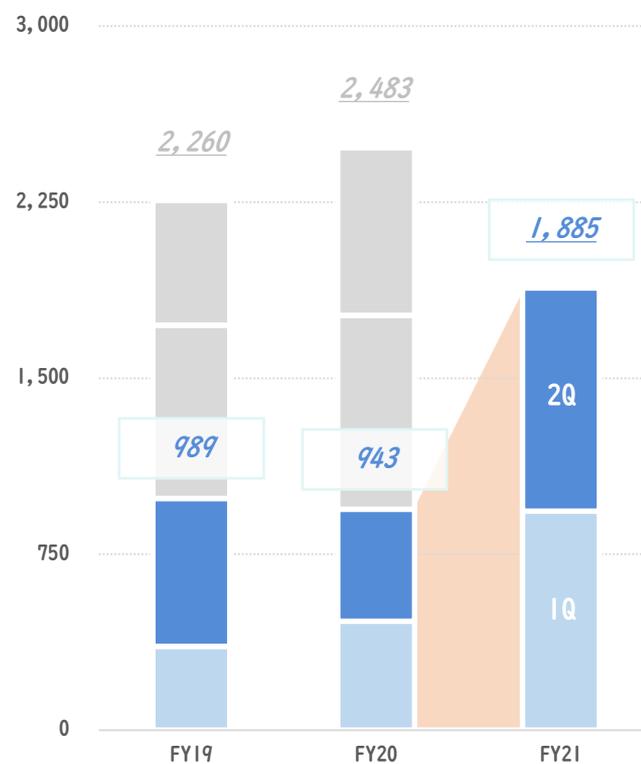
将来に関する記述につきましては、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

1. 決算概要	• • •	P.03
2. FY21配当金及び業績予想	• • •	P.09
3. Appendix	• • •	P.11

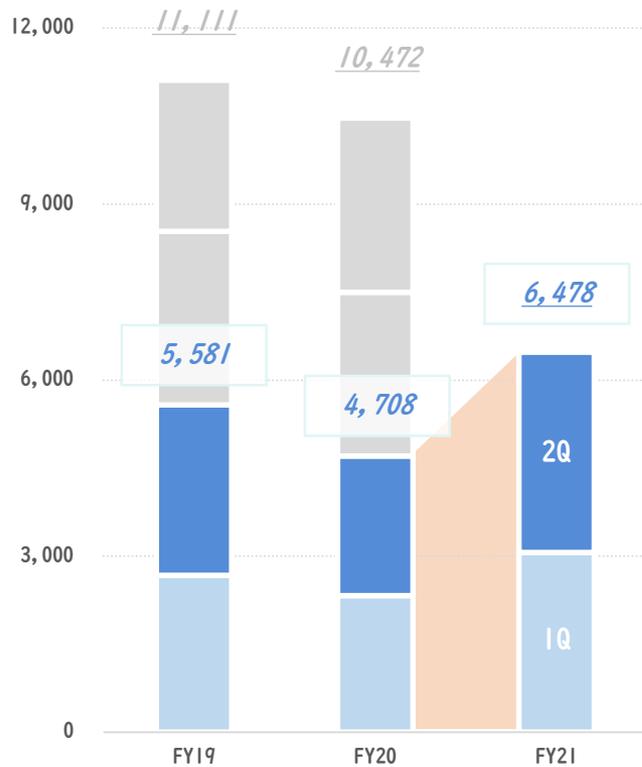
売上高（百万円）



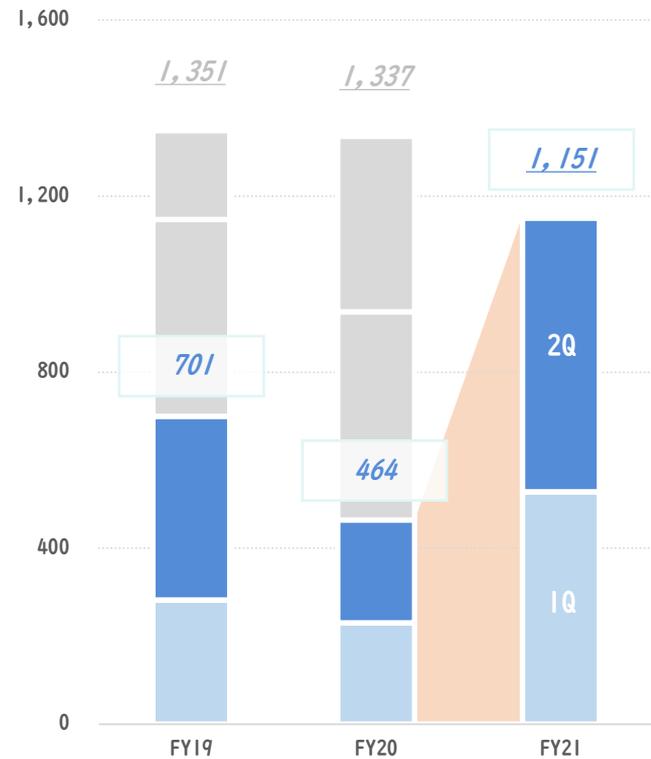
営業利益（百万円）



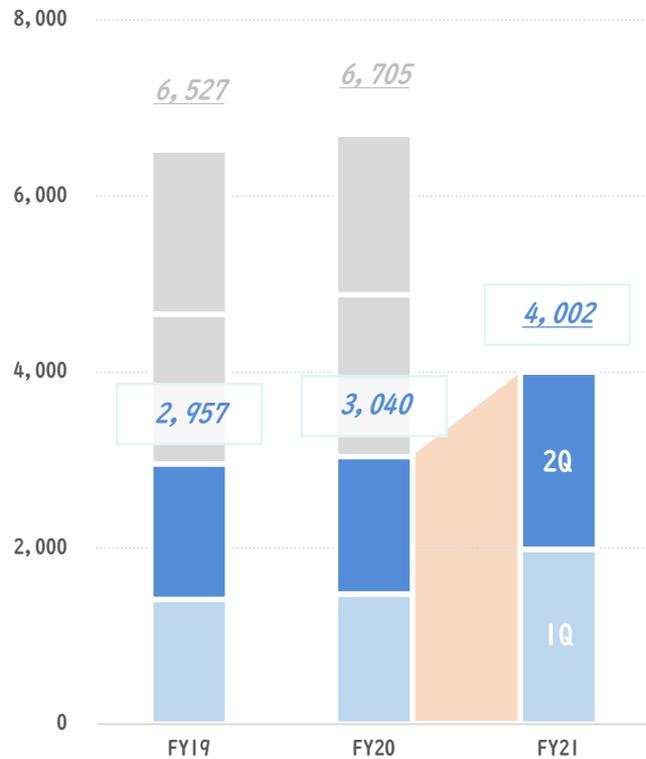
売上高（百万円）



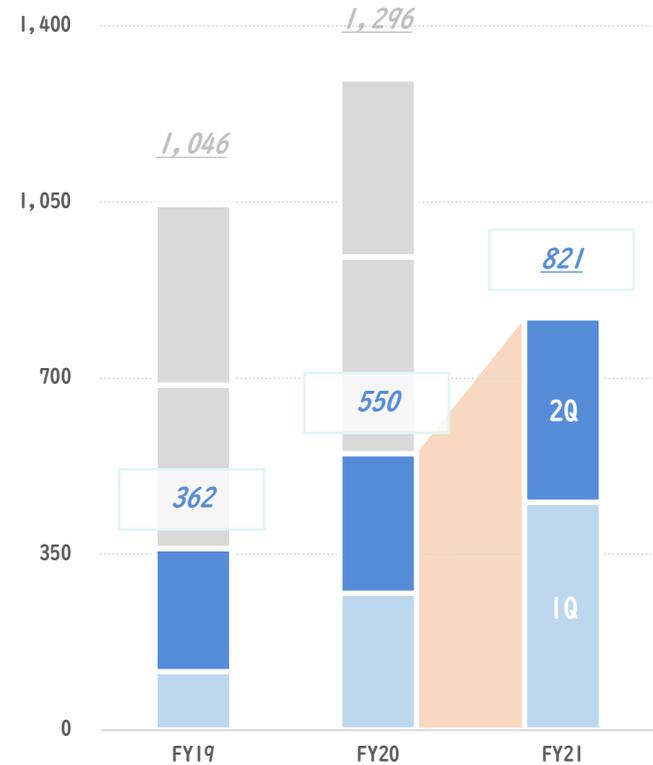
営業利益（百万円）



売上高（百万円）

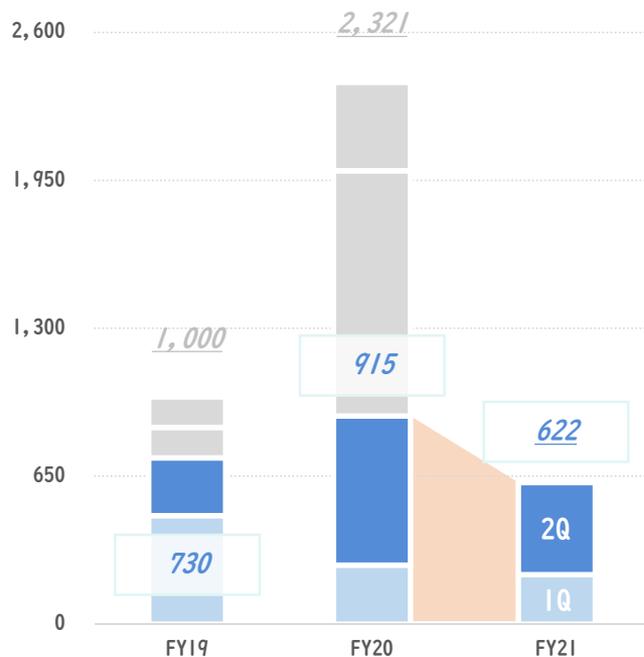


営業利益（百万円）



- ・設備投資は前年同期比▲293百万円（本体 ▲362百万円、連結子会社 +69百万円）の622百万円となった。
- ・減価償却費は生産設備等の取得に伴い、前年同期比+61百万円の461百万円となっている。
- ・研究開発費については主に本体での増加に伴い、前年同期比+10百万円（本体 +11百万円、連結子会社 ▲1百万円）の131百万円となった。

設備投資（百万円）



研究開発費（百万円）

